

厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
(総合) 分担研究報告書

強度行動障害者支援におけるICFシステムの活用について

分担研究者： 安達 潤¹⁾

1) 北海道大学

研究要旨

本研究の支援パッケージにおいて活用している ICF 情報把握・共有システム（以下、ICF システム）についての効果や課題について、令和 3（2021）年度に行った一次調査、二次調査のアンケート調査および意見交換会の参加者からのコメントから考察することを目的とした。結果として、一次調査と二次調査の結果には全体として大きな差は認められず、加えて、アンケート調査の結果は概ね肯定的評価が優勢であり、ICF システムの強度行動障害における有用性を示唆するものであった。今後、今回の研究で得られた ICF システムの有用性と課題を通じて、ICF システムの改良を検討していく必要がある。

A. ICF システムに係る研究実施の流れ

本研究の支援パッケージにおける ICF 情報把握・共有システム（以下、ICF システム）の活用と評価に係る研究の大まかな流れを以下に示す。

- ①令和 3（2021）年 3 月 9 日の本研究第 3 回研究検討委員会会議において、愛知県碧南市で展開している ICF システムの社会実装研究に係るプレゼンテーションを実施。
- ②令和 3（2021）年 5 月 11 日と 19 日に、本研究の先行試行調査への協力事業所 15 事業所を対象とする ICF システムの研修会を実施し、先行試行調査を開始し 7 月頃までに完了。併せて試行結果のアンケート調査を実施。
- ③強度行動障害支援者養成研修の参加者から本研究の協力者を募り令和 3（2021）年 10 月～令和 4（2022）年 1 月に試行調査を実施。
- ④令和 3（2021）年 10 月 29 日（第 1 回意見交換会）において「ICF システムと行動観察システムによる 氷山モデルの精緻化」「ICF 情報把握・共有システム(ICF システム)記入・活用について」の研修を実施。
- ⑤令和 3（2021）年 11 月 29 日（第 2 回意見交換会）において、ICF システム実施に係る Q&A を実施。
- ⑥令和 4（2022）年 1 月 13 日（第 3 回意見交換会）において、試行実施の成果報告を実施。

B. アンケート調査結果の概略

1) 先行試行調査（一次調査）のアンケート結果

先行試行調査（令和 3（2021）年 4 月～7 月）への協力事業所 15 事業所（検討委員が在職している事業所で一定程度の支援の質が担保されている事業所等）を対象とするアンケート調査の結果概略は以下の通りである。回答方式は「効果的・少し効果的・どちらともいえない・あまり効果的ではなかった・効果的ではなかった」の 5 段階リッカートで、14 事業所の 19 名からの回答が得られている。但し、リッカート評価はアセスメントパッケージ全体への回答であり、コメントは ICF システムに関わると思われる内容のみを取り上げている。

Q 1. 「利用者の障害特性や強み、環境要因等の把握・整理が行いやすくなったかどうかについて教えてください」については、「効果的(5)・少し効果的(11)」は合わせて 16(84.2%)、「どちらともいえない」が 3(15.8%)であった。効果的コメントの要約抜粋として「事前に事実を記録することの負担感はあるが、障害特性や強み、環境の快・不快、好影響・悪影響などの細かなデータを整理できた」「利用者について理解できていたことと理解できていなかったことの気づきにつながり、記録収集後の支援の組立を広い視点で行えた」、「根拠を持ってアセスメントに取り組み、全体ではなく

場面毎に強みを見いだす新しい視点が得られた」旨の内容が得られた。また課題コメントの要約抜粋として「設問が利用者の状況・状態に合わなかった」、「新たな環境要因や特性、強みなどの発見は今回なかった」旨の内容が得られた。

Q 2.「支援課題が具体的になったかどうかについて教えて下さい」については、「効果的(9)・少し効果的(4)」は合わせて 13(68.4%)、「どちらともいえない(5)・あまり効果的でなかった(1)」は合わせて 6(31.6%)であった。効果的コメントの要約抜粋として「日常生活の中で出来事を入力したことで支援課題が明確となり、支援の焦点も絞り込みやすく、具体的な支援計画の作成につながった」、「ICF の作成により本人のことや本人の課題を細かく考えることができ、補足情報を記入することで課題が浮き彫りになり、支援計画も具体的になった」旨の内容が得られた。課題コメントの要約抜粋として「支援が足りない部分は確認できたが、支援計画は ICF の活用よりもこれまでのノウハウ(視覚化など)で立案した」旨の内容が得られた。

Q 3.「支援者が支援に必要な利用者情報や記録の収集が行いやすくなったかどうかについて教えて下さい」については、「効果的(7)・少し効果的(8)」は合わせて 15(78.9%)、「どちらともいえない(5)・あまり効果的でなかった(1)」は合わせて 4(21.1%)であった。効果的コメントの要約抜粋として「分類項目が詳細なため改めて本人の情報整理につながり、同一の指標を他職種の視点で記入することにより多角的に利用者の支援状況をまとめられた」、「今後の支援でも活用できると思う」旨の内容が得られた。課題コメントの要約抜粋として「情報収集はしやすいが入力に手間がかかるため、時間に余裕がないと充実した記載は難しい」、「但し一旦ベースとして作れば累積記録として毎年積み重ねていくのは実用的である」旨の内容が得られた。

Q 4.「関係者間での利用者情報や支援に関する情報共有が行いやすくなったかどうかについて教えて下さい」については、「効果的(5)・少し効果

的(7)」は合わせて 12(63.2%)、「どちらともいえない(6)・あまり効果的でなかった(1)」は合わせて 7(36.8%)であった。効果的コメントの要約抜粋として「事業所で使用しているワークシートと同様の役割があつて有効であり、フォームや記入方法がある程度一本化されているため、共有はされやすい部分は見られた」、「視覚的に支援が足りない部分をまとめて表示されるため部分的な情報共有はしやすかった」旨の内容が得られた。課題コメントの要約抜粋として「ICF 全体の情報を共有するには項目の量が多くすべてを見て把握しているスタッフは少なかった」、「職員間の情報共有まで至らなかった」旨の内容が得られた。

Q 5.「記録に係る負担感の軽減が図れたかどうかについて教えて下さい」については ICF システムと合わせてアセスメントパッケージを構成する Observations2(Observations の改訂版)に係る回答のみであったため省略する。

Q 6.「支援に必要な利用者情報および記録等の分析がしやすくなったかどうかについて教えて下さい」については、「効果的(7)・少し効果的(8)」は合わせて 15(78.9%)、「どちらともいえない」が 4(21.1%)であった。効果的コメントの要約抜粋として「入力内容がカテゴリー別に分けられるためとても分析しやすく、支援計画に効果的である」、「ICF システムがあれば若手でもベテランでもさほど大きな差が出ないと感じた」、「アセスメントの視点を養うためには有効」「複数で一緒に記入して討論したので情報共有につながった」旨の内容が得られた。課題コメントの要約抜粋として「記録に基づいて分析の工程まで進めなかった」、「結果は入力次第で、入力がおざなりにされると分析も中途半端になる」旨の内容が得られた。

Q 7.「試行調査で実施した本パッケージ全体に関する評価について教えて下さい」については、「効果的(8)・少し効果的(8)」は合わせて 16(84.2%)、「どちらともいえない」が 3(15.8%)であった。

2) 試行調査（二次調査）のアンケート結果

意見交換会と並行して実施した二次調査（令和3（2021）年10月～令和4（2022）年1月）については本研究で開発しているパッケージの研修と実践に係る意見交換会への参加を希望する事業所29箇所を対象とするアンケート調査の結果概略（令和4（2022）年2月1日現在）は以下の通りである。回答方式は「効果的・少し効果的・どちらともいえない・あまり効果的ではなかった・効果的ではなかった」の5段階リッカートで、調査対象26名（途中で3事業所が辞退）のうち25名から回答が得られている。但し、リッカート評価はアセスメントパッケージ全体への回答であり、コメントはICFシステムに関わると思われる内容のみを取り上げている。

Q1.「利用者の障害特性や強み、環境要因等の把握・整理が行いやすくなったかどうかについて教えてください」については、「効果的(9)・少し効果的(14)」は合わせて23(92%)、「どちらともいえない」が2(8%)であった。効果的コメントの要約抜粋として「ICFシートでは入力した情報が本人の強みや支援の維持・調整、支援の修正、支援の考案といった項目に整理されて示されるので、全体像が把握しやすかった」「項目が決まっているのでそれについて詳しく話し合えることで意見が出しやすかったので把握しやすかった」、「シート自体は非常に有益なものだと感じた」「ICFシートの記入によって、本児を見ているようで見ていないことにまず気づいた」「環境設定等は難しいと思っているところもあったが、この子のことをシンプルに考えることができると、自分たちの頭の中も整理できたように感じる」旨の内容が得られた。また課題コメントの要約抜粋として「重度の知的障害のある利用者については効果が限定的だと感じた」、「ICFシートは客観的な整理ができるが、私自身、馴染みがないため、他職員への活用方法や考え方などの整理を十分に伝達できなかった」旨の内容が得られた。

Q2.「支援課題が具体的に変わったかどうかについて教えてください」については、「効果的(12)・少

し効果的(5)」は合わせて17(68%)、「どちらともいえない」は8(32%)であった。「あまり効果的でなかった」以下の回答はなかった。効果的コメントの要約抜粋として「支援効果の大小が分類分けされる為、介入が必要なポイントや支援内容の見直しでクリアできる課題行動など、分かりやすくよい」、「支援を実施していない部分は、焦点が当たっていない（わかっていない）部分でもあったので、焦点化されよかった」、「障害特性、環境要因どちらに偏ることなく自然と目を向けることができた（冰山モデルシートについて）」旨の内容が得られた。課題コメントの要約抜粋として「ICFへの理解が深まらずそこから具体的な支援につなげることは難しかった」、「支援課題については、支援計画に具体的に落とすところも課題になってくると思われる」旨の内容が得られた。

Q3.「支援者が支援に必要な利用者情報や記録の収集が行いやすくなったかどうかについて教えてください」については、「効果的(8)・少し効果的(11)」は合わせて19(76%)、「どちらともいえない」は6(24%)であった。「あまり効果的でなかった」以下の回答はなかった。効果的コメントの要約抜粋として「一人の利用者に関しての必要な情報を集めるということでは非常に効果的であったと感じる」、「ICFシートの書式は、「活動と参加」に関しては実際の支援現場での様子を具体的に入力することで、支援員の経験年数には関係なく情報の収集ができる」、「ICFを使うことが初めての作業で手間と戸惑いを初めは感じていた。完成した後に見直すとしっかりと情報収集ができていたのかと思われる」旨の内容が得られた。課題コメントの要約抜粋として「環境要因」に関しては、「ご家族からの情報も必要なので時間がかかった」、「(本研究について)ご家族や支援現場に説明することに少し困難さを感じた」旨の内容が得られた。

Q4.「関係者間での利用者情報や支援に関する情報共有が行いやすくなったかどうかについて教えてください」については、「効果的(6)・少し効果的(7)」は合わせて13(52%)、「どちらともいえない」は12(48%)であった。「あまり効果的でな

かった」以下の回答はなかった。効果的コメントの要約抜粋として「ICF シートのように基準となる書式があると、利用者情報が整理される」、「ICF シートが共通のツールとして活用できれば、情報共有がスムーズにできるのではないかと期待できる」、「支援員間で受け取り方に差異がある為、各支援員の思考を客観的に知ることができた」旨の内容が得られた。課題コメントの要約抜粋として「事業所数が増えた場合、ICF システムの作成や支援者会議の持ち方もさらに技術が必要になると思う」、「(情報収集後に) 考え方や情報を揃える段階で難しさを感じている状況がある」、「ご家族と疎遠の方が多く在園されている為、情報収集が難しい事例も多いと感じる」旨の内容が得られた。

Q 5. 「記録に係る負担感の軽減が図れたかどうかについて教えてください」については ICF システムと合わせてアセスメントパッケージを構成する Observations2(Observations の改訂版)に係る回答のみであったため数値データは省略する。効果的コメントの要約抜粋としては「共有できるシートという強みは感じている」、「一旦できてしまえばあとは見直しをすればよいだけなので、既存のシートをこちらにスライドしていくことも可能と考える」、「児童からの成人への引き継ぎの際に ICF シートを基に行えるととてもよい」旨の内容が得られた。課題コメントとして「ICF シートの記録についてはやはり項目数が多いことと、問われている内容の表現に難しさがあること、馴染みがないこともあり、負担感としては大きく感じた」、「今回のデータで業務量は多くなったと感じた」旨の内容が得られた。

Q 6. 「支援に必要な利用者情報および記録等の分析がしやすくなったかどうかについて教えてください」については、「効果的(9)・少し効果的(9)」は合わせて 18(72%)、「どちらともいえない(6)・あまり効果的はなかった(1)」が合わせて 7(28%)であった。効果的コメントの要約抜粋として「ICF コアセット回答分析は操作などで慣れが必要だが分析しやすい」、「項目毎に分かれていたため必要なものを選びやすかった」、「ICF シートでは、強

みや支援の継続、修正などに分析できるため、どの部分にスポットをあてて考えればよいか分かりやすかった」旨の内容が得られた。課題コメントの要約抜粋については、明確に ICF シートに関すると考えられるものはなかった。

Q 7. 「試行調査で実施した本パッケージ全体に関する評価について教えてください」については、「効果的(6)・少し効果的(13)」は合わせて 19(76%)、「どちらともいえない(4)・あまり効果的ではなかった(2)」が合わせて 6(24%)であった。効果的コメントの要約抜粋として「ICF シートは、障害特性や環境要因の把握に効果的であった」、「いまの生活の質を考える、という ICF の視点かがとても素晴らしいと感じる」、「決まった形に添って進めて行けば支援改善が望めるというのはとても画期的だと感じる」旨の内容が得られた。課題コメントの要約抜粋として「ICF の観点を捉えるためのスキルが必要なため、記入に関しての研修が必要」、「ICF シートの作成がより簡素されれば活用できる」、「重度の場合には強みがないので、支援に繋ぎにくい」旨の内容が得られた。

2. 意見交換会で得られたコメントの概略とその結果

第2回(令和3(2021)年11月29日実施)および第3回(令和4(2022)年1月13日実施)の意見交換会で得られたコメントを肯定的内容と否定的内容に分類した後、コメントがどのような内容を含むのかについて共通カテゴリーへの該当数をカウントすることで検討した。コメントは複数文で構成されるため、一つのコメントに対して、複数のカテゴリー該当がある。以下、第2回および第3回の肯定的・否定的コメントに係る分析結果を示す。なお、第2回意見交換会は ICF システムを活用した情報把握に着手し始めた時点で実施され、第3回意見交換会はその情報把握が完遂し、把握した情報の整理と見直し、事業所によっては、支援会議が開催され、2回目の情報把握が進捗している段階で実施されている。

1) 第2回意見交換会の肯定的意見

表1 第2回意見交換会(令和3年11月29日)で得られた肯定的コメント

効果・肯定的な意見	情報整理	客観性	課題把握	網羅性	本人理解 実態把握	共通認識 情報共有	支援に有用	アプリ 利便性	経験の 不問化
・共通体験として、利用者の状況を把握していない、もしくは把握している者の支援が入っていない点が浮き彫りになり、現状把握について有効だった。			1		1				
・食べ物への執着は促進・阻害の両面に影響していることが把握できた。			1		1				
・活動と参加はスムーズに書くことができた。									
・入所施設なのだが、普通の生活を送っていないことを振り返る機会となった。					1				
第2回意見交換会 各カテゴリーに該当する肯定的コメント (複数該当あり)	情報整理	客観性	課題把握	網羅性	本人理解 実態把握	共通認識 情報共有	支援に有用	アプリ 利便性	経験の 不問化
	0	0	2	0	3	0	0	0	0

2) 第2回意見交換会の否定的意見

表2 第2回意見交換会(令和3年11月29日)で得られた否定的コメント

課題・否定的な意見、疑問	労力・時間 コスト	書き方 判断基準等	要研修	シート構成の 利便性	チーム活用の 難しさ	適用の 課題
・協力・共同がどのくらいできているか？の判断が難しかった。		1				
・「活動と参加」をどこまで書けばいいか？例えば健康維持は施設だと保たれているので、本人自身が何をどこまで、というのが難しかった。		1				
・実際の仕方は、各部署で記入し、それをすり合わせて清書したので、時間がかった。	1					
・(食べ物への執着は促進・阻害の両面に影響していることが把握できた。)しかしそれをどのように支援の調整に活かしていけばよいのか？					1	
・人数を広げていくとまとまりがなくなっていく。二人で記入したが感じ方が違う。		1				
・ICFシートは全体像をつかむシートで、純粋に項目に関する答えを記入すると考えるが、問題行動を頭に浮かべて記入しがちになってしまっている現状がある。		1				
・ICFシートは全体像をつかむシートで、純粋に項目に関する答えを記入すると考えるが、問題行動を頭に浮かべて記入しがちになってしまっている現状がある。記録の重要性を現場の職員に上手く伝えられない。余計なことを職場に持ち込むと言う雰囲気がある。メリットを伝えることが難しい。	1	1			1	
・記録をどう風に運用していくのか？ 普段の支援につなげて行く方法					1	
・環境要因については、重度の施設入所者は体験や経験がなく、詳細不明・被害等が多い。結果につながるのか？						1
・認定調査の項目に近く、趣旨や判断基準がちがうので困った		1				
・環境要因は難しく、書いている内容が妥当かどうか自体が不安だった。		1				
・一年目の職員は記入が難しい			1		1	
・記入の基準があるとよい		1				
・質問項目に対してより具体的にしてもらえるとよかった。		1				
・例えば「目的」を持って行動できるではなく、スケジュールがあれば等の具体的な表示。		1				
・質問内容が大枠で重複している場合には、同じ答えを書いてよいのか？		1				
・一次チェックの担当者が経験の浅い人と難しい(当該担当者も二次チェック者も大変になる)	1		1			
・対象者が高齢の人の場合も情報がとりにくく難しい。						1
・主観で書くスタッフがいたとき、2次チェックが大変になるので、職員研修など底上げも同時に必要ではないか。		1	1			
・どこまで具体的に記入したらよいのか？		1				
・支援員によって行動が変わるので、どこまで記載したらよいのか分からない。		1				
・支援員3名で記入する予定だが、タイミングが合わず、進んでいない。今後、やり方を見直す必要がある。					1	
第2回意見交換会 各カテゴリーに該当する否定的コメント数 (複数該当あり)	労力・時間 コスト	書き方 判断基準等	要研修	シート構成の 利便性	チーム活用の 難しさ	適用の 課題
	3	14	3	0	5	2

3) 第3回意見交換会の肯定的意見

表3 第3回意見交換会(令和4年1月13日)で得られた肯定的コメント

①パッケージの有効と感じた点	情報整理	客観性	課題把握	網羅性	本人理解 実態把握	共通認識 情報共有	支援に有用	アプリ 利便性	経験の 不問化
[ICF] ・アセスメントは項目の多さはあるものの、支援をしているのか、していないのか、効果があるかないかを整理できるので、課題を見つけやすかった。	1		1						
[ICF] ・主観ではなく客観的に情報を整理できる。 ・項目が整理されていることで漏れなく情報を確認できる。	1	1		1					
[ICF] ・客観的な分析ができるので、本人の強みや弱み、支援の不十分な点などがよく分かり、新たな支援を考える上で参考になった。 ・項目が多く、作成には時間がかかったが、支援員やご家族からの情報を集め、話し合う過程がとても大事なのだと思った。今までのアセスメントの不十分さを感じた。			1		1	1	1		
・ICFシートについて、自分の事業所で行っているものよりも、細かく項目にわかれていたため、記入するのに時間はかかったが、改めてメンバーのことをアセスメントできたり、ソフトを使うことで情報もまとめられたので、見直したり、振り返るのがとてもやりやすかった。	1			1	1			1	
・ICFを利用し、利用者の状態や様子等をつかみやすくなった。 ・長期での記録として残すことができ、現在のアセスメントの材料や過去にさかのぼる資料としても活用できるデータベースとしてもできることがよい。 ・データがとても取りやすかった。					1		1	1	
・ICFシートを入力していくことで利用者の実態を把握することができ、問題となる行動以外の支援にも活かせる。					1		1		
・ICFを通して直接支援をする職員の間に関わらず利用者さんへの共通認識がしっかりと行え項目毎の具体的な例から統一した支援につなげやすかったのが大きい ・簡単な入力で問題の視覚化が可能になり職員間で状態を共有しやすい。						1	1		1
・ICFシートの記入を通じて、対象利用者のことをICFの視点からアセスメントすることができ、客観的にとらえることができた。 ・「(ICFシステム+行動観察システム)→氷山モデル→支援手順書」というフォーマットがあることにより、「根拠に基づく支援」を組み立てることができた。「勘と経験」に頼るのではない、支援の組み立て方の指針となるものだと思う。		1					1		1
・ICFシートについては、様々な職員で作成することによって、当事者の全体像を共有できると思われる。 ・オブザーベーションシート、オブザーベーション2については、記録がグラフや表となり視覚的に見られる事は良かった。					1	1			
・ICFシートは事業所内、他事業所との共通の認識を持って本人と関わることができるツールとなり得る						1			
・ICFシステムは使用することで、生活機能から障害を捉えるという視点を持つことができた。ICFシート記入後はデータが分類分けされるため、手作業で行う必要がなく利便性が高いと感じた。一度作成すれば定期的な見直しで済むので、最初の記入さえ頑張れば有効なシートと感じる。	1				1		1	1	
○ICFシートについて ・入力に時間がかかかと思うが、完成すれば精度の高いものになるのではと思う。 ・解説があるのはいい(解説内容はともかくとして) ・入力エラーがわかりやすい点もよかった。				1				1	
・使用方法も難しくなく、全職員が使いこなすことができれば、時間の短縮になり、グラフ化できるので有効だと感じた。 ・ICFシートについては、解説があり、間違いが分かるようになっているのは分かりやすかった。 ・実際には行っていないが、他事業所と情報共有できる点はいいと感じた。 ・ICFの項目を埋める上で、知らない部分も多く、自身の情報の少なさを実感した。						1		1	
・チームで進めることで、思いや考え方を共有できる。 ・パッケージがあることで、支援の難しい利用者対応で行き詰まりが解消できる可能性がある。				1		1	1		
・対象者のことを分かっているつもりだったが項目を見るごとに違う視点で対象者を見ることができると知り、改めて対象者のことを深く掘り下げることができる。強みを知ることにつながる。 ・対象者のことを知らない人が見てもその人がどんな人なのか簡単ではあるが知ることができると。 ・チームで情報を共有することができる。客観的に見ることができるのは各関係機関や保護者とも情報の共有がしやすい。		1			1	1	1		
・シートを埋める上で知らない部分や背景が見えた。同時に会議など行うことで修正や新たに追記したところなどあり、情報をアップデートできた。 ・行動などの記録を簡単に打てる、かつ、まとめられる。データがある上で支援や情報提供などうまく活用できた。				1	1	1			
・詳細に検討すればするほど新たな気づきがあり、アセスメントを深めることができる。 ・支援手順書や新たな支援方針に生かすことができる。そのベースになる。 ・アプリ(Observations)により、状況・記録がすぐわかり医師との連携もしやすいと思われる。			1	1	1		1		
・ICFコアセットを利用し、それまで利用者の状態像を客観的に記録できるようになった点。以前だと担当の主観が入ったり、チームでの共通認識としての状態像を記録として残すことが難しかったが、今回一度作成することで今後の支援を考える上でのベースになると考える。			1			1	1		
・改めて、本児を客観的にみることで、気づくことがたくさんありました。そのことを、スタッフと共有するきっかけにもよったと思います。普段から、氷山モデルの考え方で子どもたちを見てきましたが、支援手順書にまで落とし込むことはしおらず、書き出して共有する必要性を感じました。			1		1	1			
・ICFを打ち込むことで改めて気づけることもあり、支援手順書に新たに生かせたり、ためてみたいことが見つかった。			1		1				
・ICFシートでは、見るべき視点が分類されているため、アセスメントを深めることができたり、抜けていた部分を補えたり、「参加」では新たに家族と情報共有をするきっかけとなった。 ・支援員間での情報の共有が具体的にでき、またベテランの支援員が見ている視点も知ることができ、経験の浅い支援員の人材育成につながると思った。 ・データ解析で、修正が必要な部分と介入していない部分等を分類できるため、個別支援計画書を作成する際に有効であると感じた。 ・ICFシートで分析された視点を元に焦点を当てて支援が考えやすくなった。			1		1	1	1		
・ICF分析で「強み」や「配慮すべき点」が見えることが良かった。 ・今まで気づけなかった新たな強み等が見つかった。			1		1		1		
・当法人が使用している個人情報シートと比較しても、ICFシートは細かに項目が分類されており、それを明確に記載することで、本人の行動面などの状態像を知る上で有効と思われる。また、両者のデータを整理し、組み合わせられたものができたら、より支援に活かせるのかもしれない。 ・今後、当施設で各利用者の担当支援員がICFシートを記入し、それを支援員間でチェックしあうことで、支援を行う際、どのような部分に配慮が必要なのかなどを、より細かに知ることができる。 ・支援上、本人の活かし点、支援を行っていく部分について、表を確認しあいが進めることで、より根拠を示すことができる。	1		1	1	1	1	1		
・ICFシートについて、施設独自のものより細かく項目が分類されていて、利用者さんのことを改めてもっと知ることができました。 ・施設入所履歴が長い利用者にとっては、経験したことがない項目が多かったことに気づき、利用者体に体験させてみようと思え、支援に活かせるようになった。				1	1		1		
第3回意見交換会 各カテゴリーに該当する肯定的コメント数 (複数該当あり)	情報整理	客観性	課題把握	網羅性	本人理解 実態把握	共通認識 情報共有	支援に有用	アプリ 利便性	経験の 不問化
	5	7	5	9	15	12	14	5	2

4) 第3回意見交換会の否定的意見

表4 第3回意見交換会(令和4年1月13日)で得られた否定的コメント

②パッケージの課題と感じた点	労力・時間 コスト	書き方 判断基準等	要研修	シート構成の 利便性	チーム活用の 難しさ	適用の 課題
[ICF] ・すべて書くのには時間がかった。チームで取り組むのが大事だと思うが浸透するまでは難しいかもしれない。書き方は練習と理解を深めていく必要がある ・ICFシート作成のみの勉強会などあってもいい	1	1	1			
[ICF] ・入力に簡易的であっても、その後の分析ツールへのアップロード等、実際に使用するには手間がかかり、誰でもあってもできるものではなかった。 ・入力のための労力と時間がかかる（個人的にはパソコンよりもスマホから入力できると簡単）。	1			1		
[ICF] ・シートの種類が発達年齢を基準にされていたが、明確な基準がないと選びにくかった。支援現場では、利用者を必ずしも発達年齢で捉えてはいない。利用者の実年齢で対応するように心がけている。 ・初めに17歳以上で入れてしまい、その後6-16歳で入れ直したが、分析結果に大きな違いは出てこないように思えた。		1				
・職員の取り組み姿勢(やる気)が現場と自分とで差が大きかった(世話人に伝えないと他職員は動かないがその世話人がまた他のGH応援でほぼ不在の状況)。チームとして参加する事の重要性を説くことが難しかった。					1	
・ICFシートについては、施設に入所されている重度の知的障害の利用者だと該当しない項目や判断に迷う項目が多かった。(だからこそ施設入所という生活の場が「普通」ではない、ということもあらためて感じただけではあります)						1
・ICFシートについては、様々な職員で作成することによって、評価が違うことで、イメージがつかづらいいこともあると思われる。例えば、A職員は課題行動として評価し、B職員は、こだわり行動として評価するなど。		1			1	
・基準を設けても課題行動に対する評価(頻度、強度等)の統一性を保つのは、人数が多くなる程難しいと感じた ・シートが複数あるので、作成する者への負担増は避けられない		1			1	
・ICFシートについても、記入するにあたって求められるレベルが高いと感じる。13年従事している自分であっても記入に困ることや、主観で記入してしまうこともあった。しっかりしたものを仕上げよとすると、ハードルは非常に高いと思う。			1			
ICFシートについて ・困難あり、なしの2択で間がないのが記入しづらい ・支援あり、なしの2択で間がないのが記入しづらい 一部ではあるが・・・ということが多い ・複数の支援方法(一部は介助、一部は構造化など)の場合の書き方は? ・ストレスが高い、難しいので設定をしていない(場面を避けている)時はどう書くかがわかりづらい ・質問内容が広範囲(ににおい、触覚がまとめられている、「活動」を一人でする など)で答えにくい ・解説があるので助かるが、例えば答えにくい ・「③支援の効果」の内容をどう書いていいかわからない		1	1	1		
・ICFシートを作るのに時間を要する。また、職員によってとらえ方も違うため、見直しをする職員に負担をかけてしまう。	1	1				
・作業量が多い→理解度の高いスタッフ、3名1チームぐらいの小グループがまだやりやすかった ・アセスメントは各法人独自のものがあるため、今後の使用イメージがつかづらいい、→すべてのプロセスを流用するよりは、プロセスを理解し補うイメージで進める。		1			1	
・他職員にお願いするのは業務を増やしてしまうことになる。 ・パッケージをどう活用し、今後運用していくのかを上司にプレゼンするためにそれに合わせた労力と結果を求められてくるかなと思った(予算も必要なので)。 ・支援者によって価値観、視点が違うためそれを統合する作業やバランスが難しい。	1	1			1	
・単純に作業量、仕事量が多くなるためスタッフに担ってもらうのは心苦しいです。	1					
・パッケージの内容をしっかりと文章化し充実したものにするには、知識と経験による専門性ある支援者が必要だと思った。書き手により有力な情報か、平易なのか差がある。(ウイスクIVの所見といっしょで、書き手の専門性によって差がでると思った。) ・パッケージの中身を理解して、活用できるくらい支援スキルが必要。 ・心理的支援一つにしても奥が深い。しかし昨今は行動療法と視覚支援が軸になっているので、特に心理的支援が浅薄だと感じる。 ・感覚統合やディスクレシアなどに対応した学習支援にも熟知していないと、パッケージを十分に活用できないと思った。 ・特別支援教育士の知識なども大いに役立つと思った。 ・前向きに活用するためのリーダーシップ・マネジメントが必要。		1	1			
打ち込み作業等、できる人が限られているので、紙に書き出してそれを私が打ち込んでいました。	1					
・ICFシートへの記入や支援会議を通じて、ある程度支援員の知識がないと内容が難しいと感じる。 ・ICFシートを支援員で役割分担して記載したが、支援の効果の判断が支援員で差がある。そのことで、解析した場合に修正し上がってこない項目があった。 ・分量が多く項目ごとに関わっている内容もやや分かりにくい表現でもあり、現場になじませるには相当なパワーが必要。個別支援計画、モニタリング、支援会議、日々の記録、その他法人業務等あるなか、どうシステムとして入れ込むか。 ・他の人が出してくれた支援の「大」「小」が、自分の印象と異なり、すりあわせや意見の活用をする事の難しさがあった。みんなの意見も大事にしたいため、その辺が統一できるようなわかりやすい設問であつたらよかった。	1	1	1			
・ICFシートについて： 難しい言葉や内容であったため、わかりづらいという意見が多く聞かれたため、ベテラン職員に協力依頼するしかなかったことから、 ①理解できる支援員が限定される ②当施設ではほとんど区分6のコミュニケーションが困難かつ強度行動障害を有されている方々が多く在籍されており、判定後の強みがゼロ(ない)と出た時、正直衝撃でした。強度で重度の方々を支援してきた(さん)強みを発揮してきたつもりですが、ICFシートでは、強みが出せなかったことが残念でした。当施設には向いていない資料なのか(自分があまり理解していないことが原因と想っている)しかし、氷山モデルのツールに落とし込んでからの支援のアイデアは、これまで利用した経験があつたため色んな職員の意見が盛り込まれた内容になった。 ③もう少しわかりやすいsheetであれば、だれでも入力できるのではないかと感じた。		1		1	1	1
・今回、複数名の支援員にICF情報入力シートの打ち込みをしてもらったが、個人により内容の差が非常に出ていた(これは当施設の各支援員スキルの問題でもあるが)。 ・項目の質問事項自体がわかりづらいい意見もあつた。見本みたいなものがあると、ある程度の支援員でもスムーズに打ち込みができると思われる。		1	1			
・ICFシートについて、言葉が難しく表現されていて、どのように理解した方がいいのか迷うことがありました。支援者によって、理解度や受け取り方がばらばらなので、まとめる方としては難しいと感じました。		1	1			
第3回意見交換会 各カテゴリーに該当する否定的コメント数 (複数該当あり)	7	13	7	3	6	2

C. まとめと考察

1) アンケート調査のまとめ

一次調査と二次調査の対象は、前者は一定程度の良好な支援を担保していることが見込まれる事業所である一方、後者はいわゆる平均的な支援を反映する事業所であった。この調査設定は、本研究で開発しているパッケージを普及する上でのICFシステムに係る課題を把握するというのも目的としていたが、一次調査と二次調査の結果には全体として大きな差は認められなかった。加えて、アンケート調査の結果は概ね肯定的評価が優勢であり、ICFシステムの強度行動障害における有用性を示唆するものであった。このことは本研究で開発を進めているパッケージを構成するICFシステムが事業所の支援状況によって、その有用性が左右されるものではなく、普及することによる支援状況の向上を見込める可能性があることを示唆している。設問の中で差が認められたのはQ4「関係者間での利用者情報や支援に関する情報共有が行いやすくなったかどうか」であり、この設問については、二次調査で肯定的回答の割合が低下した。事業所内外での情報共有の行いやすさについては、当該事業所全体としてシステムティックに支援を展開しているか否かに影響を受けるため、支援の質によって結果が影響を受けた可能性がある。またアンケート各設問の自由記述回答も、両調査で大きな差はなく、肯定的評価としては「利用者のことが多角的かつ具体的・詳細に理解できる」、「支援を組み立てやすい」、「経験を問わない情報収集」、「分析の結果が分かりやすく活用しやすい」旨の回答が得られた。一方、課題的評価としては「入力に手間がかかる」、「重度の利用者については効果が限定的」、「ICFシート記入の研修が必要」旨の回答が得られた。

2) 意見交換会のコメント分析のまとめ

意見交換会で得られたコメント分析は第2回と第3回の肯定的回答で大きな変化を示し、第2回では肯定的意見が5回答のみであったのに対し、第3回では74回答と大幅に増加した。一方、否定

的回答は第2回では27回答、第3回では38回答と若干の増加であった。この変化は、第2回意見交換会の実施がICFシステムによる情報把握を開始した頃である一方、第3回意見交換会の実施が、情報把握の完遂、把握情報の整理と見直し、支援会議開催の後であることによると考えられる。ICFシステムは、項目数が多く労力がかかると感じることで、ICFによる情報把握の考え方に馴染みがないこと、等により、肯定的な評価が即座に得られるものではない。しかし、実際に支援対象者の生活情報を支援関連情報や環境要因と併せて網羅的に収集することにより、支援対象者の理解が深まり、生活実態から支援を立ち上げていくことができるとの体験ができた段階で、ICFシステムの評価は肯定的なものとなっていくと思われる。実際、第3回意見交換会におけるコメント分析のカテゴリ分布は「本人理解・実態把握」(15回答)、「支援に有用」(14回答)、「共通認識・情報共有」(12回答)の3つが上位を構成しており、「把握された本人の実態・理解が情報共有されて共通認識となり、有用な支援に行き至った」という繋がりを示唆している。併せて4位以下の「網羅性」「客観性」「情報整理」「課題把握」についても「客観的で網羅的な情報が把握・整理されて課題が見えてくる」というICFシステムの特徴を反映する回答結果であったと思われる。

一方、否定的回答については第2回と第3回でほぼ同様のカテゴリ分布であり、両回とも「書き方・判断基準等」の難しさが最も多く「労力・コスト」「チーム活用の難しさ」「要研修」が続くという結果となっている。先述したように、ICFによる情報把握の観点、これまでの障害特性や診断タイプを前提とした評価とは異なり、生活実態そのものにおける個人の振る舞いと関連する環境要因(支援アプローチも含む)をセットで捉えるものである。このことがICFシステムによる情報把握観点のわかりづらさとなっていると思われる。また、情報把握を行う支援者によって捉え方が異なる場合があるという状況そのものが、チーム活用の難しさとの評価につながっていると考

られる。

しかし、支援を必要とする利用者の振る舞いは、場面によってその現れが変わるからこそ、支援の難しさも生じてくるということがある。そのことを考えると、支援者の捉え方をすり合わせて「単一の利用者像」を描くことよりも、「場面によって振る舞いに変化するダイナミックな利用者像」を共有することこそ支援の手がかりがあるという「背景因子を擁する ICF の観点」を研修で伝えていくことの必要性が示されているとも考えられる。

3) 全体の考察

ICF システムに関して、一次調査および二次調査のアンケート調査、そして、二次調査の対象事業所が参加した意見交換会の第2回・第3回のコメントを分析したが、全体としては一貫した結果が得られたと考える。

今後、今回の研究で得られた ICF システムの有用性と課題を通じて、ICF システムの改良を検討していく必要がある。

4. 本研究について

本稿では、本研究のアセスメントパッケージを構成する ICF システムに焦点を当てて、研究結果をまとめてきた。しかしこれは本研究が提案するアセスメントパッケージを構成する一面であり、また別の一面としては、問題行動の行動分析から支援構築を検討する Observations がある。問題行動の背景には、当該の問題行動が生じることに直接関係し誘発する環境要因が存在することは明らかであるが、その環境要因は、広く生活場面の中に埋め込まれており、その意味で、広く生活場面全般における支援対象者の行動を環境要因との関連の中で捉え、安心できる過ごしやすい生活を提供することが支援の大きな背景を為すことは、問題行動に対する支援アプローチと齟齬するものではない。その観点から、本研究が提案するアセスメントパッケージの有用性を、現場実践の中で捉え返し、位置づけていくことが今後必要である。